

みなさんが選ぶ『私のおすすめの1冊』 3月分

書名	著者	出版者	コメント
幸福な食卓	瀬尾まい子	講談社	心があたたかくなります。
春よ来い、マジで来い	足立 紳	キネマ旬報社	倉吉出身のブギウギのシナリオライターブレイクする前の暗黒の時代の自伝的小説
おわりのそこみえ	凶野 象	河出書房新社	重くハードなストーリーを軽やかに書かれた快(怪)作
指先から旅をする	藤田 真央	文藝春秋	音楽家のエッセイとして小澤征爾、山下洋輔以来のおもしろさ
汽車・水車・渡し舟	橋本 正夫	日本文教出版	むかしの鉄道の風景などを見たいという方におすすめ(岩美町関係では岩井町営軌道)
通い猫アルフィーの軌跡(シリーズ編)	レイチェル・ウェルズ 訳 中西和美	ハーパーコリンズ・ ジャパン	飼い主を亡くし、ひとりぼっちになった猫アルフィーが、住む場所を求めて”通い猫”として生きていく物語です。様々な事情を抱えた住民たちとの出会いが、お互いの心を解きほぐしてくれる、心温まる作品です。猫のささいな仕草や、猫側の視線で書かれているところと、文章も短いチャプターですので、読みやすいです。世代を問わず、沢山の方に読んでもらいたいおすすめの一冊です。
少年と犬	馳 星周	文藝春秋	最後は涙が止まりませんでした。
羊と鋼の森	宮下 奈都	文藝春秋	ピアノ調律の奥深さに、まっすぐな外村くんにとっても引き込まれました。